

# やさしい日本語作成マニュアル

## 1 やさしい日本語って何？

「やさしい日本語」とは、普段使われている言葉を外国人にも分かるように配慮した、簡単な日本語のことです。外国人市民と意思疎通をする際に「やさしい日本語」が役に立ちます。

## 2 やさしい日本語の作り方

### ポイント1 文章

- 伝える情報を取捨選択する
- できるだけ余分な情報をカットする
- 伝えたいこと（金額、日付など重要な情報）を前に持ってくる

### ポイント2 文

- 一つの文を短く、簡単な構造にする  
例：「申請書に押印し、市役所窓口に提出してください。」  
→「申請書に印鑑を押してください。その後、市役所に出してください。」
- 文末表現は単純化し、できるだけ統一する  
例：「申込時期が決められています。」→「申し込む日が決まっています。」  
「市役所に届出をしましょう。」→「市役所に届けを出します。」  
「外国人相談が受けられます。」→「相談をすることができます。」
- 分かち書きをする（文節ごとにスペースを入れる）  
例：「今日は 天気が いい。」
- 条件の表現はできる限り「～時」で表現する。  
例：「税金を納付できない場合」→「税金を払えない時」
- 複雑な文書は、箇条書きや表を利用する
- 曖昧な表現は使わない

## ポイント3 単語

- 難しい言葉を簡単な言葉に言い換える

- ◇ 漢語 「記入する」→「書<sup>か</sup>く」 「無料」→「お<sup>かね</sup>金は<sup>い</sup>り<sup>ま</sup>せ<sup>ん</sup>」  
「高<sup>たか</sup>台に避難する」→「高<sup>たか</sup>い<sup>と</sup>こ<sup>ろ</sup>に<sup>に</sup>げ<sup>る</sup>」
- ◇ 敬語 「該<sup>あ</sup>当<sup>ひ</sup>する方」→「当<sup>あ</sup>て<sup>ひ</sup>は<sup>ま</sup>る<sup>人</sup>」
- ◇ 抽象的な言葉 「指<sup>さ</sup>定<sup>てい</sup>日<sup>に</sup>ま<sup>で</sup>に」→「●<sup>がつ</sup>月●<sup>にち</sup>日<sup>ま</sup>で<sup>に</sup>」

- 外来語はできるだけ使わない

例：「資格取得をサポートします。」→「資<sup>し</sup>格<sup>かく</sup>を<sup>と</sup>る<sup>こ</sup>とを<sup>た</sup>す<sup>け</sup>ま<sup>す</sup>。」  
「キャンセルする」→「やめる」

- 覚えてほしい言葉はそのまま使い、後に説明を加える

例：「避難所」→「避<sup>ひ</sup>難<sup>なん</sup>所<sup>じょ</sup>（にげるところ）」

- 擬態語、擬声語（ドキドキ、ガンガンなど）は使わない
- 年月日は「<西暦>年（ねん）△月（がつ）×日（にち）」で表記する
- 時間は12時間表示にする 例：「15時30分」→「午<sup>ご</sup>後<sup>ご</sup>3時<sup>じ</sup>30分<sup>ぶん</sup>」

## ポイント4 体裁を整える

- 図やイラスト、写真を活用する

例：「弁当持参」→「昼<sup>ひる</sup>ご<sup>も</sup>はん<sup>を</sup>持<sup>も</sup>っ<sup>て</sup>い<sup>く</sup>こ<sup>と</sup>」



- 漢字・カタカナにひらがなでルビをつける

### 3 その他

- 外国人市民に説明をする時は、説明は短く簡潔にする、難しい言葉を使わない、ゆっくりはっきり発音するなどの配慮で、伝わりやすくなります。
- やさしい日本語に正解はありません。例えば中国から来た人にはひらがなより漢字のほうが伝わりやすいこともあります。
- やさしい日本語を作成するときは、国際課に御相談ください。伝わりやすい表現を一緒に考えさせていただきます。

参考資料：愛知県『「やさしい日本語」の手引き』